

「86秒のオカリナソング」について

その名前にひかれて買ったチョコレートはとてもおいしかった。チョコが呼吸するのか、食べた人の呼吸がよくなるのか。

食べながらあらためて思った。まずかったかもしれない・・・新企画の当初のネーミングである。テーマソングといていたが、コンセプトが今までとちがうなら、ネーミングもよく考えるべきだった。いろいろご意見がとどく。またつくるの？ もうテーマ曲ってあるじゃないか。などなど。たしかにテーマ曲はこれまで、3曲も発表している。内部からもややこしいといわれた。今回は歌詞がつくからテーマソング、ではあまりに安易だったかもしれない。

オカリナのためにかかれた身近な曲を発表できたらという思いでスタートしたが、はじめからしっかりとコンセプトがあったわけでもなかった。ただ今回は地元大阪の人に、そしてアマチュアの方をお願いしてみようと思った。そしてなんとなくだが、時間は3分ぐらいでと。

ある日たまたまみていたテレビ番組で、ピアニストが次のようなことを言っていた。「ドヴォルザークの『家路』は故郷チェコに対する思い、郷土愛を曲にしたものですが、世界中のどこの国の人がきいてもノスタルジーを感じるんですね」。これをきいて、「こんな感じだな、ほしいのは」と思った。さっそく作曲を依頼した方につたえるとともに、みなさんからもアイデアを募集することにした。なので、第二段のチラシには、「それぞれの郷土を愛する思いを皆で共感する・・・そんなテーマソングつくる」と記載した。テーマソングという名前はかえたほうがいいと思ったが、いい名前がうかばなかった。やがて曲の案がとどく。きかせていただいて、親しみやすいメロディと感じたが、もっと短い方がいいような気がした。ここであるヴァイオリニストがコンサートで言っていた言葉を思い出した。「すべてのクラシック曲を5分以内にアレンジしています」。そうだ、より関心をもって親しんでいただくには短い方がいい、身近に感じてもらうには短いほうがいいと、短さにこだわってみる。しかしどれくらい短いほうがいいのかはわからなかった。私はせっかくいただいた約3分の曲を思い切ってカットしてみた。そのときいただいた楽譜でいえばBメロすべてをカットしたことになる。デモ音源をカットしてきいてみた。これぐらいでどうだろう。そのときの演奏時間が1分26秒だった。データがどれくらいかしらべてみると、約2MB。メールの添付ファイルでデータを送るときのサイズはだいたい2MBぐらいまでというのがビジネスマナーらしい。これぐらいのサイズなら、SNSなどでシェアしていただきやすいかもしれない。この企画がめざすのは南大阪から曲の発表はするが、その後は地元だけでなく、いろんなところへとんでいって、いろんな人に親しんでいただくこと。そう思いながら、あらためて1分26秒を秒になおしてみた。「86秒」。なんとなくよくみかける数字だと思って、じっとながめっていると、いろいろかんできた。数字でいろいろ思い浮かぶのはおもしろい。そこでこの「86秒」をそのまま今回の新企画のネーミングにしようと思いついた。作曲者に「この曲、86秒をお願いします」といって、音源もつくりなおしていただいた。ついでもう一つたのんだ。「この楽譜はA4サイズ1枚にしてください」。紙ベースで人にわたすことも考えた。スマートに人に渡すなら、A4サイズ1枚で。このようにして、新企画を「86秒のオカリナソング」と名づけた。肝心の曲の説明は作曲者本人からしていただく。気に入っていただけたらうれしい。